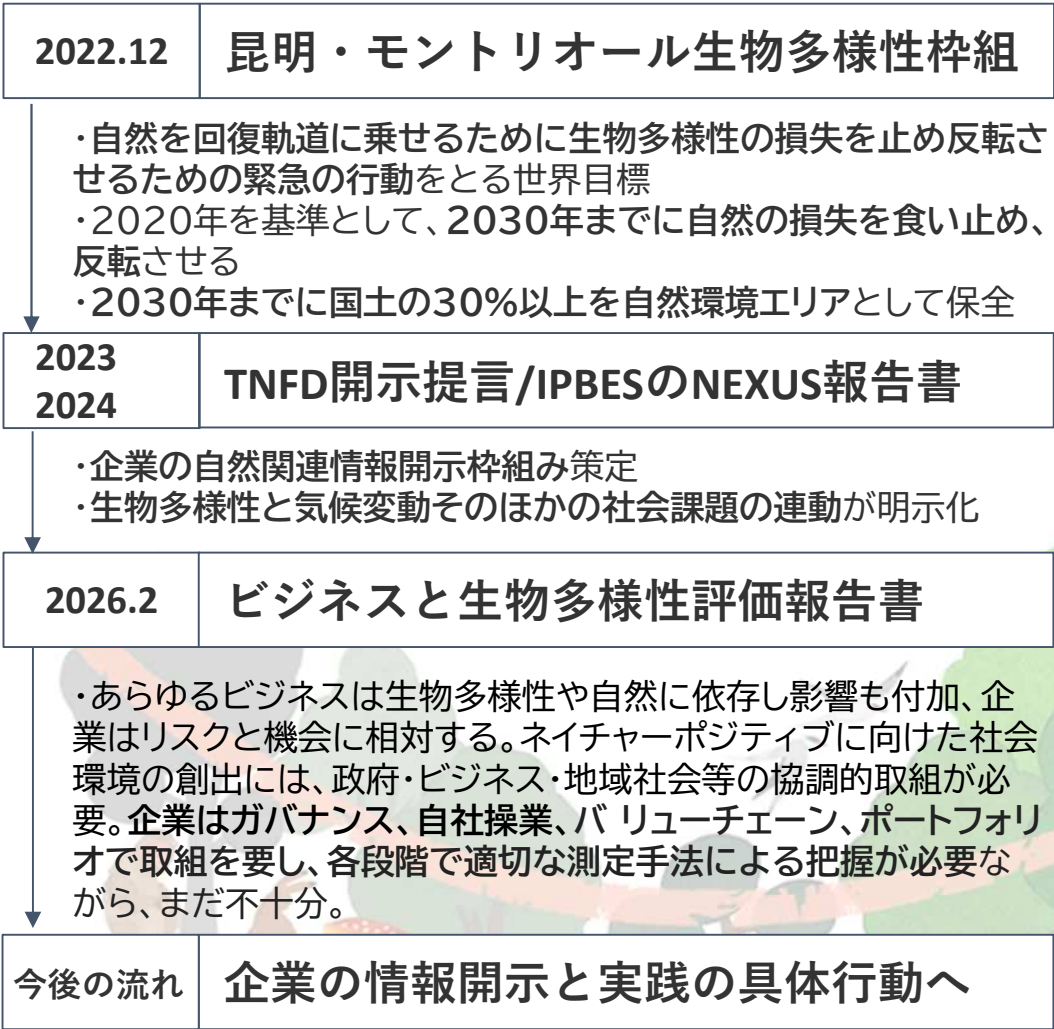


ネイチャーポジティブへの国際動向とその観測・評価の必要性

世界の潮流



日本の動き



2020

2030

2050

川崎市 ”みどりの将来像の実現に向けた取組”について

■ 背景

- ・企業では、TNFD設立やESG投資等の世界的な潮流を踏まえつつ、自然関連の情報開示を行う動きが進んでいる。
- ・こうした状況を踏まえて、行政においてもネットゼロやネイチャーポジティブなどに向けて将来の目指すべき姿が示された。
- ・今後は、これまでの緑化や保全活動などに加え、生物多様性に配慮した緑化や地域還元、様々な技術を活かしたみどりの機能・効果の発揮等に取り組み、世界的にも評価される好循環を生み出すことが期待される。

■ 川崎市が示す「緑のつながり」の取組の方向性

- ・生物多様性の増進に資する緑のまとまりやつながりを意識して、官民連携により、多摩丘陵の貴重な自然の保全を進めるとともに、地域の潜在的な植生を意識した緑化の推進により、既存の公園緑地や街路樹、河川の親水空間などと、面的な広がりを創出することで、ネイチャーポジティブ(自然再興)を推進し、市全域で生態系ネットワークの形成を目指す。

■ 企業に期待される行動 ～まとまりやつながりのある緑の創出に向けて～

- ・地域の潜在的な植生を意識した植栽や生態系に配慮した緑化の推進、隣接する緑地等とのつながりを意識した緑地の創出
- ・基礎データの収集や動植物の生息・生育モニタリングの実施による現状把握
- ・緑や生物多様性に関する国際的な評価制度の活用などによる効果的な発信

■ まちなかの緑の創出を支える評価制度

- 自然共生サイト(環境省)(現在の認定数:川崎市内3件:学校1、企業1、市施設1)
ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現に向け、企業の森や都市緑地など、民間の取組等による生物多様性を増進する活動計画を国が認定する制度
- TSUNAG認定(優良緑地確保計画認定制度)(国土交通省)(市内事例なし)
気候変動対策や生物多様性の確保、ウェルビーイング向上に資するよう、民間事業者等による質・量ともに優れた緑地確保の取組を国が評価・認定する制度



川崎市王禅寺処理センター 市の取組例
(出典:川崎市「自然共生サイト」)



赤坂インターシティAIR 都市開発の取組例
(出典:国土交通省「TSUNAG認定」)

森章研究室について

東京大学 先端科学技術研究センター 森章研究室



自然撓乱



生物多様性



気候変動

■ 研究の特色

当研究室では、陸域における生物間の相互作用メカニズムの解明と生態系管理について研究を行っています。「生態系管理学」は、科学としての生態学の最新の知識をもとに、人間社会と複雑に絡み合った生態系を保全するための応用科学です。

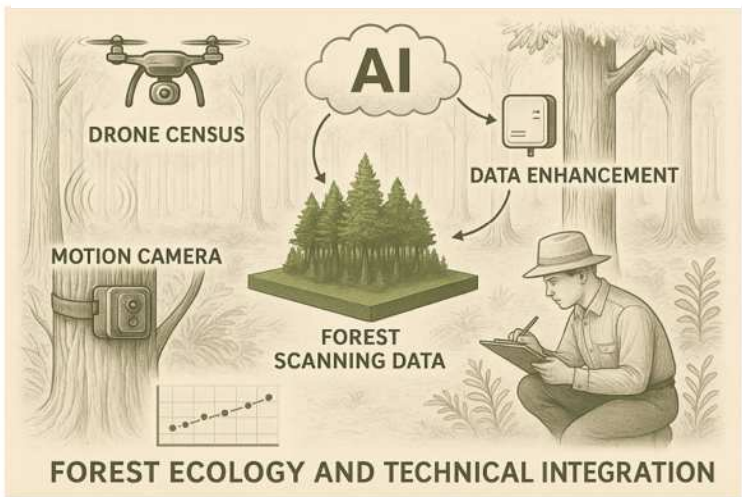
■ 推進中のメインプロジェクト

- 【地域】JSTプロジェクト: 地域利害関係者連携による知床の自然林回復へ向けた活動
- 【日本】環境省プロジェクト: 社会実装可能な生物多様性モニタリング手法の構築
- 【世界】ERCAプロジェクト: 生物多様性観測の国際標準化への整備

JST SOLVEの活動風景



環境省の自然価値評価 モニタリング手法イメージ



陸域の緑地(自然共生サイト、森林を含む)を対象としてアクティブセンシングによるデータ取得とAI技術を組み合わせることで、特定分類群や単一指標に依存しない多次元評価を、科学的正当性を担保しつつ、専門家に依存せず、継続的に、低コストで行う